



代っ子通信

令和6年5月8日
＜第6号＞
校長 平塚智康

端午の節句 ～季節感や旬を大事にする～



＜校庭を悠々と泳ぐ鯉のぼり＞



＜鯉のぼりの下で元気に遊ぶ子どもたち＞

端午の節句です。5月1日、運動場の国旗掲揚塔に「鯉のぼり」を揚げました。この日は五月晴れのとてもさわやかなお天気で、4匹の親子の鯉たちは吹き流しと一緒に、すっごく気持ちよさそうに悠々と泳いでいました。

最近、住宅事情もあり、街中で「鯉のぼり」を見かけることがめっきり少なくなりました。だからこそ、学校に「鯉のぼり」を揚げ、子どもたちに大空を悠々と泳ぐ、本物の「鯉のぼり」を見せてあげたいと思いました。学校に、そして、子どもたちに、「鯉のぼり」は本当に似合います。体育館の屋根より高くのびのびと泳ぐ鯉たちを見ながら、代っ子たちも鯉のぼりのように、たくましく元気に育ってほしいと願う私でした。

そして・・・給食の時間、献立には「柏もち」。やっぱり、端午の節句には「柏もち」が欠かせません。この日の給食は、5年1組で食べました。（週ごとに、6年1組から順に、校長が各教室を回って給食を食べています。）

「校長先生、和菓子好き？」「大好きや！校長先生、あんこ大好物やねん。」「先生、ぼくんち、和菓子屋なんや。こんど来てください！」「よっしゃ、わかったぞ。おすすめはなんや？・・・」そんな会話ははずみ、楽しいひとときになりました。

「鯉のぼり」「柏もち」・・・日本には美しい四季があり、日本人は古来から季節感や旬を大切にしてきました。四季の移ろいを肌で感じたり、季節感を楽しんだりする営みは、きっと子どもたちの豊かな感性や情操を育むものと私は信じています。

「なんで5月に鯉のぼりを揚げるの？」「なんで柏もちを食べるの？」・・・少し深掘りして、親子で考えたり調べたりしてみると、感性ばかりでなく、探究心や知性まで磨けますよ。

学校に揚がっている「鯉のぼり」は、町内の方からお借りしたものです。学校で「鯉のぼり」を揚げたいと、地区会館に相談したら、貸していただける方をすぐに探していただきました。ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。